

# 平成19年度事業報告・収支計算書

特定非営利活動法人ACTION

## 海外事業

### ジャイラホーム支援事業

**実施場所：**サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町

**実施期間：**平成 19 年 1 月～同年 12 月

フィリピンの NGO によって運営され、様々な背景から親元を離れた子どもたちが生活する児童養護施設ジャイラホームでは、ACTION 設立時の 1994 年から継続して支援を実施しています。施設運営の自立・子どもたちの生活環境の向上等を目的とする本件では、本年度は下記の 5 つの活動を実施しました。

#### ●児童養護施設の自立的支援にむけた農業技術向上支援

本プロジェクトは自給体制の確立・施設の資金確保を目的とし、施設内での野菜栽培を実施したものです。昨年度までも試験的に数種の野菜の植え付け等を実施してきましたが、本年度からは農業スタッフも設置し、通年の活動として本格的に活動を開始しました。主に実施した活動が作業小屋・グリーンハウス・水道の設置等の建設作業と実際の野菜の栽培です。これらの活動は、千葉県で農園を経営されている柴田様からの技術指導と機材提供、オロンガポ市ロータリークラブによる資金助成を頂いて実施しました。

天候の影響や現地スタッフの技術不足等による課題は見られましたが、本年の活動により、利用可能な農地 1.39 ヘクタール中の 0.7 ヘクタールを開墾、なす・とまと・苦瓜・青梗菜・大根等を栽培し、不定期ながら、施設の子どもたちの食用にも供給することができました。また、小額ですが、余剰の収穫の販売も行うこともできました。次年度以降も継続し、安定した収穫を供給できる体制の確立を目指します。



グリーンハウスオープニングセレモニー



収穫した野菜を料理するジャイラホームの子ども

#### ●業務用クリーニング店の開設・運営

本プロジェクトは、施設の自立支援を目的とし、クリーニング店の運営を行っていくというものです。埼玉県でクリーニングの和光を経営されている佐藤様からの資材のご寄附と技術指導を頂いて活動を実施しました。具体的に、施設内のガレージの店舗への改装と水道タンク等の設備設置作業・クリーニングの和光様（代表取締役・佐藤信夫様）よりお送りいただいた機材の取り付け作業を主に実施しました。電力や現地技師関連で問題があったため、計画に遅れが発生し、本年度後半の開店という目的は達成することができませんでし

たが、本年度末にはいくつかの内装を残してほとんどの作業が終了しており、次年度初期の開店に向けての準備を進めています。また、運営に関しても、施設スタッフによるマーケティング調査や、操業トレーニングを実施しました。



モーターの調節作業の様子



貯水タンクを作成中のクリーニングスタッフ

### ●空手を通した青少年育成プログラム

本プロジェクトは、こども達が空手の修養を通して強い意思や規律、礼儀を身につけ社会に出て行けることを目的とした青少年教育です。昨年度まではジャイラホーム内の道場のみを利用していましたが、本年は町の中心部に道場を開設し、施設のこどもに加え、一般のこどもたちも多くが入門しました。しかし、入門者が長続きしない、こどもの休みの時期のみの短期生徒が多い等の事情から資金面での問題が増え、12月には町の道場を閉鎖、昨年度までと同様に施設内の道場を利用するのみとなっています。

このような課題はありましたが、4月にはジャイラホーム

のこども3人が日本で行われた全日本青少年空手道選手権に招待選手として出場、9月はフィリピンでの極真空手大会では優勝者2名を出す等の成果も得られています。また、空手の成績を残したこどもはもちろん、大会に出場したこどもには「誇りやプライド、勝ちたいという気持ち」が大きく芽生えたようでした。



大会にて武士道賞を受賞したジャイラホームのこども



九月の昇級審査にて

### ●パキュット基金

ジャイラホームの運営は経済的に厳しく、数ヶ月に渡ってスタッフの人員費が滞ることが頻繁に発生します。スタッフの給料が安定せず、こども達の母親代わりである「ハウスマザー」が度々入れ替わるという事はこども達の精神面に影響を及ぼし、児童が健全に成長できる環境を提供するという児童養護施設の目的を果たす事が難しくなります。そこで本プロジェクトでは支援者を募り、ジャイラホームのスタッフの人員費への支援を実施しました。本年度は継続支援者67名・新

規支援者 46 名の計 113 名に支援いただき、ソーシャルワーカー・ハウスマザー計 7 名の毎月の人件費の半額を支給しました。



ジャイラホームの子ども



ハウスマザー、ソーシャルワーカーと子どもたち

## ●施設改修事業

施設のプライバシーを保護するため、そして近年設置された施設敷地前面の道路を通行する工事用大型トラックからの埃や事故から施設を保護するために壁の設置を実施しました。現在は壁の基礎と柱が完成し、来年度に上部部分にフェンスを設置する予定です。



建設途中の壁基礎と柱

## ニニョスパグアサセンター支援事業

実施場所：サンバレス州オロンガポ市オールドカバラン町

実施期間：平成 19 年 4 月～同年 5 月

ニニョスパグアサセンターはフィリピンの NGO によって運営される、聾啞者の自立支援施設です。当会は 2000 年より活動の支援を行っています。本年度は医療支援・マンゴージャム作成による施設の自立支援の 2 つの活動を計画していましたが、より多くの希望者がいる医療支援を重点的に実施して欲しいとの施設の要望から、後者は本年度では実施せず、後者の予算を医療支援に組み込んでの支援となりました。

### ●医療支援

同施設では口唇口蓋裂・ヘルニアなどの障害を持ちながらも経済的な理由で手術が受けられずにいる子ども達を対象にスポンサーを募り、病院と提携して手術を提供する活動を実施しています。これに協力し、本年度、当会は 21 名のこどもたちの医療支援を実施しました。4 月にイロコス州の病院にて口唇口蓋裂 19 名・ヘルニア 2 名の手術が行われ、具体的に、手術費・交通費・食費・薬代・レントゲン代等を支援しています。こども達は 7 ヶ月～13 歳、サンバレス・パンパンガ・バタアン・パンガシナン州からのこどもたちでした。



手術後、抜糸を終えみんなにかっこよくなったじゃないと言われポギーポーズでパチリ

## ストリートチルドレン支援事業

実施場所：サンバレス州オロンガポ市及び周辺地域

実施期間：平成 19 年 1 月～同年 12 月

ストリートチルドレン支援・児童の権利の啓発等の活動を行っているフィリピンの NGO タタッグ (Tayo Ang Tinig At Gabay = 私達自身が声であり道である) と提携して実施したものです。3 年目の本年は下記の 2 つの活動を実施しました。

### ●奨学生支援プロジェクト

本プロジェクトは、経済的な理由で就学が困難な貧困地域の児童への就学支援を行うもので、本年が 3 年目の実施となりました。本年度も、昨年度までと同様に約 500 名への児童に

対し、入学費用支援、学用品・制服の支給を実施しました。

また、タタッグとの協力により、奨学生の暮らす地域や学校でのモニタリングを月に一度程度実施しました。これにより、奨学生が家庭内や学校内で抱える問題を把握しやすくなり、同時に教師と保護者の関係を強化することで、問題に速

やかに対応できる環境ができ始めています。今後も、親に対する児童の権利や教育に対する理解の促進、奨学生が暮らす各地域の強化が課題となっていくと思います。

また、本年度からの新しい取り組みとして、日本国内での制服・学用品の募集を行い、多くの寄付が日本から届きました。次年度以降も安定して寄附を確保するシステムを確立すること・奨学生が必要としている学用品等を提供していくことが今度の課題となります。

本プロジェクトは、今井記念海外協力基金の助成金をいただいて実施しました。また、これらの活動はブログにより進捗を報告しています。



モニタリングの様子



制服を受け取った奨学生たち

### ●コミュニティ改善プロジェクト

本プロジェクトは、タタッグが支援するオロンガポ市内及び周辺地域から要請を受けた小規模プロジェクトへの支援を行うものです。3年目の本年は下記の3ヶ所での活動を行いました。

### ・水道設備、通路舗装

**実施場所：**オロンガポ市マクタン町

**実施期間：**平成18年12月～平成19年5月

タタッグが支援を行う貧困地域の一つである当地域にて、水道設備と通路舗装を行いました。本件はルーテル学院大学の学生からご協力をいただいて実施し、地域住民が作業を行いました。当地域では、長年飲料水や生活用水が確保できず、近隣の地域から購入し、各家庭まで運んで使用するという状況が続いていました。また、急斜面が多く、雨が降ると地面が滑りやすくなり地元住民の通勤通学にも支障をきたしていました。

本件により地域住民は、地域内で安全な水源を確保できるようになりました。水の売上から水道料金を支払い、その残金で水道のメンテナンスを行っています。同時に、地域内の親が組織するグループ KASAKI (Kasama sa inabukasan = 未来への集い) の基金としても利用されています。



コミュニティ改善事業マクタン配備した水道

### ・浸水防止壁設置

**実施場所：**オロンガポ市サンタリータ町

**実施期間：**平成19年3月

オロンガポ市内に位置する当地域では、毎年雨季に入ると、地域全体に雨が溜まり深刻な浸水に悩まされていました。少し強い雨が降るとすぐに家の2階まで浸水し、住民の通勤通学にも支障を来し、衛生状況も悪く、住民は不自由な生活を強いられていました。そこで当会では地元政府や地域住民と協力し、3月のワークキャンプにて地域内の浸水元の川沿いに浸水防止用の壁を設置しました。その結果、以前は期間

中長期に渡って続いていた浸水が、壁の設置後は記録的な大雨の降った2回に留まりました。



**サンタリータ浸水防止用壁**

・簡易学習教室建設

**実施場所**：オロンガポ市カラックラン町

**実施期間**：平成19年9月

提携団体のタタッグは、現在オロンガポ市内の4地域にて、ECGD(Early Child Care and Development =就学前のこども達のための無料の学習教室)を実施しています。当地域では、以前は野外に机やテーブルを並べて、授業を実施していま

た。そのため、授業は天候に左右されカリキュラムどおりに進めることができず、また生徒が授業に集中しやすい環境ではありませんでした。そこで、地域住民との協力のもと、9月ワークキャンプにて建設作業を行いました。教室の完成により、授業を計画通りに進めることができるようになり、生徒の出席や授業への意欲も向上したという報告を受けています。また、地域で暮らす親やこども達の集会所としても利用されています。



**カラックラン ECGD センター完成後の授業の様子**

## 先住民族アエタ族支援事業

**実施場所**：サンバレス州サンマルセリーノ行政区サンタフェ町バリウエット集落

**実施期間**：平成19年1月～同年12月

フィリピンの先住民族であるアエタ族の生業確保・所得向上を目的とする本活動は本年度で9年目となりました。昨年度に発生した平地民とアエタ族住民の抗争、それに伴うアエタ族住民の避難集落への退去により、当会のこれまでの活動のほとんどが中断を余儀なくされ、本年度は集落の再建を主な活動として実施することを計画していました。しかし、依然として集落内の治安が回復せず、住民の避難生活も続いていることから、予定していた予定していた活動のほとんどが延期、下記の2つの活動のみを実施しました。

### ●バリウエット住民救援プロジェクト

上記の問題により、バリウエット住民約200名が他の集落に避難していますが、避難地では主な生業である畑作が困難なため、住民の避難生活は経済的に多くの問題を抱えていま

す。そこでこの緊急支援として、本プロジェクトでは住民への9ヶ月間の食糧支援、行政との交渉の補助等を実施しました。しかし、依然として治安は回復しておらず、住民の避難生活は続いており、次年度以降も行政への呼びかけを継続していきます。



**避難住民への食糧支援の様子**

### ●アエタ族への薬樹栽培普及プロジェクト

本プロジェクトは生業に限られ、所得が不十分なアエタ族に対し、彼らの伝統的な知識を利用した薬樹栽培を普及することで、持続的な生業の確立と所得の向上を目的とするものです。計画では、避難住民の集落復帰を経て、平成18年まで実施してきた同取り組みを再開することを予定していましたが、住民の集落への復帰が果たせず、当初予定していた活動は実施できませんでした。

そこで、計画を変更して開始したのが茶樹の栽培です。これまでの薬樹に茶樹も加えて所得の向上を図ることを目的としたもので、静岡県でお茶産業に関わる柴田様のご提案とご協力を頂いて開始しました。具体的に、ジャイラホームへの苗床の設置を経て、本年度後期より日本・台湾・スリランカ等からの茶樹の苗木の栽培を開始しました。バリウエットへの住民の復帰が可能となり次第、これらの苗木栽培・植え付けをバリウエット集落内で実施することを計画しています。



**茶樹の苗木植え付けの様子**



**苗床の設置作業の様子**

## 国際ボランティア体験事業

国際協力とフィリピンの子どもたちを取り巻く環境をより多くの市民の方に知っていただくために当会では設立当初の1994年よりワークキャンプという形で国際ボランティア体験事業を実施しています。本年度は146名の方が全国から参加をして下さいました。しかし4年前には200名を数えた参加者数が年々減少してきており、その原因として旅行代理店や大学が同じようなプログラムを実施している事や、フィリピンの治安に対する不安感が挙げられます。国際ボランティア体験事業が占める事業収入の割合が多い当会としましては参加者を増やしていく事はもちろん、他の体験プログラムの提供等より多くの方が参加しやすい形を考えていきたいと思っております。

## ●ジャイラホームワークキャンプ

- ①平成 19 年 2 月 2 日～2 月 22 日 8 名：農作業小屋の設置
- ②平成 19 年 3 月 2 日～3 月 22 日 28 名：井戸堀り・下水道
- ③平成 19 年 8 月 2 日～8 月 22 日 22 名：農業・壁の設置
- ④平成 19 年 9 月 2 日～9 月 22 日 28 名：農業・壁の設置

本年度もジャイラホームにおいて各 3 週間、計 4 回のワークキャンプを実施し、壁の設置や井戸堀、農作業等やホームステイプログラム、こどもとのイベント企画等を実施しました。

## ●ニニョス・タタッグワークキャンプ

- 平成 19 年 3 月 3 日～3 月 23 日 22 名：浸水防止用壁
- 平成 19 年 9 月 1 日～9 月 21 日 4 名：就学前児童の学習所

本年度春期に行ったワークキャンプでは提携団体であるタタッグの支援先サンタリータという地域で雨季の浸水から住宅を保護する壁の設置を行いました。夏期のワークキャンプでは、貧困等の理由により幼稚園に通えていない児童への学習補助としてタタッグが行っている E C C D (Early Child Care Development) や、集会所に使う場所の整備を行いました。週末にはストリートチルドレンのためのエデュケーションに参加し、染物や、運動会、ゲーム大会等を行いました。またニニョスパグアセンターでは 3 週間の滞在を通してこどもたちと交流を深めました。

## ●スタディツアー

- 平成 19 年 2 月 22 日～3 月 1 日 14 名
- 平成 19 年 8 月 23 日～8 月 30 日 20 名

スタディツアーでは 1 週間の日程で当会が実施している事業法の訪問や視察、マニラのゴミ捨て場見学等を実施しました。

## その他プロジェクト

### ●土曜学校

実施場所：

サンバレス州カスティリヤホス行政区バライバイ町

実施期間：平成 19 年 4 月～同年 12 月

武蔵野市教育委員会主催「土曜学校～世界を知る会(小 4～6

年コース)」

本事業は武蔵野市教育委員会から委託を受けて実施しました。本年で 4 年目となります。日本とフィリピンの奨学生の交流を軸としており、バライバイ再定住区小学校 3～6 年生の 26 名が文通プログラムに参加しました。

本年度は、当会のフィリピン事務所にてインターネット使った画像配信を通して、文通パートナーとの交流を図りました。また、国際協力機構の JICA ネット(インターネット回線を利用したテレビ会議システム)を利用させていただき、テレビ電話でのイベントも実施しました。各国グループ紹介やフィリピンからの歌とダンス披露、ゲーム、質問、幸せなら手をたたこう合唱等の内容で、こども達は「ゲームが楽しかった!」「友達と話せて嬉しかった!」と話していました。また、普段遠出することのないこども達は首都マニラへの遠足を大いに楽しんでいました。



**ACTION ネットで文通相手と会話をすることも**



**JICA ネットゲームを楽しむこどもたち**

●イバ施設改善プロジェクト

実施場所：サンパレス州イバ市アムンガン町

実施期間：平成 19 年 4 月～同年 6 月

本プロジェクトは平成 17 年度まで実施していたイバ市アムンガン町での学習センター建設プロジェクトに追加して実

施したものです。これまでの活動により、センターは完成しており、既に子ども・青年の学習の場として利用されてきましたが、追加の設備としてセンター2 階部分の改装・トイレの増築等の要望が寄せられたため、これらの追加を実施しました。この実施にあたっては、これまでのイバワークキャンプ参加者からのご寄附を頂いて実施しました。

国内事業

●チャリティーショップ

フィリピンと日本の地域と地域。市民と市民をつなげるというコンセプトを掲げた本ショップは、2008 年 1 月に開店 2 周年を迎えました。当初はフィリピンの雑貨やお菓子を置いているだけの店でしたが、本年度 5 月には店の立地を活かしてボランティア情報コーナーを新設し、地域のより多くの方々に市民活動に触れる機会を提供してきました。また、小中学生の利用者が増えてきたため、東京マイコープ様の助成金を頂いて本年度 9 月に店舗面積拡張の内装工事を行い、ミーティング兼作業スペース及びフィリピン文化体験ワークショップスペースを新設しました。



チャリティーショップ入口

昨年度に引き続き今年度も千葉県柴田農園様より野菜をいただき、店頭で販売しました。

また、本年度は地域の優良店「ムーショップ」として武蔵野市に認定されました。



助成金で新設された野菜小屋（作：野口亮介）

本年度（2007 年 1 月～12 月）のチャリティーショップを通じた寄付は以下の通りです。

	今年度寄付額
孤児院（ジャイラホーム）	¥277,327
先住民族（アエタ族）への寄付	¥168,347
盲ろう学校（ニニョス）	¥207,050
ストリートチルドレン（タタッグ）	¥285,195
野菜	¥228,864
合計	¥1,166,783

## ●家族会員

日本とフィリピンの市民と市民の交流による相互の地域活性化を目標に昨年度4月に解説した本制度ですが、今年は3組増え、全部で4組となりました。そのうちの一家族は本年度10月にフィリピン・サンパレス州カステリヤホス町パライバイ再定住地区の姉妹ファミリー宅を訪ね、10日間ほどのホームステイを楽しまれました。

また、3つの家族は会員特典であるキッズステーションにご参加いただいています。担当のスタッフが、その子の学習状況に合わせ個別に対応させていただいています。

## ●武蔵野市教育委員会主催

### 「土曜学校～世界を知る会（小3～6年コース）～」

本事業は昨年度に引き続き武蔵野市教育委員会から委託を受け、本年度5月から12月にわたり実施しました。武蔵野市内の小学校に通う小学3年～6年生26名が集まり、それぞれフィリピンのパライバイ小学校に通う同学年のこどもとパートナーを組み、ビデオレターや手紙の交換、スカイプやJICAネットでの交流などを行いました。今年はどうどん作りやむさしの国際交流まつりなど、新しい活動も試みました。



フィリピンのこどもとネットを通して記念撮影

## ●境南達人帖

当会が事務所を置く商店街の活性化を図り、昨年度に引き続き本活動を実施しました。第一弾は商店街の「達人」7名にインタビューし冊子にまとめ、本年度4月に発行しました。現在第二弾を作成中です。

## ●学校教育との協働授業実践

本年度は以下の学校で協働授業を実践しました。また、必要に応じて学生のボランティアを派遣し、学生と生徒の少人数グループでフィリピンでの体験などの語り合いなどをしました。

東京都立東村山西高校（総合学習）

東京都立鷺宮高校（総合学習）

西東京市立田無第四中学校（総合学習）

町田市立第一中学校（総合学習）

江戸川区立西葛西中学校（選択社会科）

## ●講師派遣

フィリピンでの活動・経験を日本の地域社会に還元するため、代表の横田を講師として各種セミナー、講演会に派遣しました。

武蔵野市国際交流協会「教員ワークショップ」

武蔵野市教育委員会「土曜学校」

ボランティアセンター武蔵野「おとぱサロン」

亜細亜大学（ボランティア論）

中央大学

奈良教育大学

他

## ●ワークキャンプフォーラム

（1月27～28日、7月7～8日、10月7～8日）

本事業はワークキャンプの普及を目的として国立中央青少年交流の家が主催するもので、当会は昨年度より運営委員会として関わっています。本年度は1月、7月、10月の3回開催しました。10月の会は各団体の合同事後研修として行い、団体を超えてワークキャンプの体験談を共有しました。

## ●ボランティア派遣

昨年度に引き続き本年度も三鷹市にある児童養護施設朝陽学園や日の出太陽の家へボランティアを派遣しました。派遣項目は以下のとおりです。

## 1) 朝陽学園

- ・ 週末遊びボランティア（随時）
- ・ こどもまつり（9月）
- ・ バザー（10月）

## 2) 日の出太陽の家

- ・ 原木切り（11月）
- ・ 餅つき大会（12月）

### ●国際協力・交流イベント及び地域イベントへの参加

#### 1) 三鷹国際交流フェスティバル（10月14日）

地域での認知度向上と団体間交流を目的とし、本年度初めて参加しました。ブースではマンゴーバナナアイスの販売及びフィリピンのお菓子・雑貨の販売を行いました。



お祭りの様子。高校生がボランティアとして参加。

#### 2) むさしの国際交流まつり（11月23日）

地域での認知度向上と団体間交流を目的とし、昨年度に引き続き参加しました。活動紹介パネルの展示、フィリピンのお菓子・雑貨の販売、フィリピンの遊びなどを実施しました。またボランティアスタッフによるワークショップ「世界のじゃんけん」を11階ステージにて実施しました。本年度は11階の運営委員会を発足し、当会は運営委員として関わりました。

#### 3) 柳沢駅前フェスティバル（7月21日）

株式会社クリーニングの和光様の全面的な協力の下、西武新

宿線西武柳沢駅前で行われた本イベントに出展しました。お好み焼き、水餃子、マンゴーバナナアイス、フィリピン風カキ氷ハロハロなどの販売を行い、売り上げはジャイラホームのバス購入費へ充てさせていただきました。



商店街活性化の一環として出展

### ●会員企画

当会の会員様が主体的に活動を企画・運営する活動です。本年度、以下のような活動がありました。

#### 1) ACTION 関西

本企画は、当会のワークキャンプに参加した関西在住の会員様が中心となり、関西地区で当会の活動を広めることを目的としているものです。本年度は、ワークキャンプ説明会、大学祭への出展、ネパール勉強会及び現地視察を行いました。

#### 2) どさんこACTION（新企画）

本企画は当会のワークキャンプに参加した北海道在住の会員様が中心となり、北海道で当会の活動を広めることを目的としているものです。本年度は、大学祭での活動紹介・写真展示・チャリティーショップ出張販売などを行いました。

#### 3) チャリティーショップ出張販売（新企画）

当会の認知度向上・国際協力の意識向上を目的とし、東京家政学院大学にて実施されました。

#### 4) アクションマラソンクラブ（新企画）

本企画はマラソン大会の場において当会の宣伝入りのユニフォームを着用することによる認知度向上を目的としたものです。本年度はデビュー戦として立川の昭和記念公園で開催された駅伝カーニバルに出場しました。

## ～NPO法人ACTIONの企業と協働での取り組み例～

当会では様々な企業と連携することにより、多角的な視点からフィリピンへ関わり、企業の特性と当会の特性を活かした協力を実施していきます。それにより多くの市民が参加しやすい国際協力を目指します。

### 1・柴田園（千葉市内の農家／農地25ヘクタール）

**概要：** 当会が運営するチャリティショップに低農産野菜を週1～2回無料で送って頂き、店頭で販売。その売上げで孤児院の野菜自給自足プロジェクトを実施。また柴田園社長の柴田氏が定期的にフィリピンを訪れ計画策定と技術指導を行う。

<http://ameblo.jp/action-jireh/>

#### これまでの主な成果：

- ・ 農地の年間を通した計画を作成
- ・ 農業作業棟兼資材置き場の設置
- ・ ビニールハウス2棟  
（\*現地ロータリークラブの協力もあり）
- ・ ハンドトラクター1台取得
- ・ 農業専門家1名の雇用（非常勤）
- ・ こども達への野菜の安定供給（現在はオクラ、大根、苦瓜、芋、ナス、トマトが自給自足）
- ・ 市場での販売（2007年11月～余剰分を近隣マーケットで販売）

### 2・クリーニングの和光（西東京に本社を置くクリーニング会社／13店舗）

**概要：** 孤児院ジャイラホームの資金的自立のため、クリーニング会社を当会と協働で設立。施設内にクリーニング工場を設置し（工事には日本からの大学生ボランティア延べ100名が従事）、孤児院の運営資金獲得と就労の場となる事を目指す。現在、工場長就任予定の施設卒業生が日本でトレーニング中。収益の50%は孤児院運営へ、50%は当会と振り分けられ孤児院以外での活動にあてる。

#### 現在の状況：

業務用クリーニング機材一式（洗濯機・脱水機・乾燥機・ド

ライマシン・ボイラー・水道システム一式で総額2000万円程度）を日本から無償で輸送して頂き、工場予定地に設置・試運転済み。ホテルのシーツやタオル。工場のユニフォームが対象となるため現在営業まわり中。クリーニングの和光社長の佐藤氏が定期的に訪れ、技術指導及び機器のメンテナンスを実施。またクリーニングの和光13店舗の持ち帰り袋（有料）代金が当会への募金となっており、このクリーニング事業にも活用している（年間30万円程度）。3月に正式開業の予定で、現在は営業担当者が市場調査中。顧客は個人ではなく近隣のホテル40軒や工場のユニフォーム（スービックフリーポート内）を予定。

\*13店舗での募金に関しては3ヶ月毎に報告を作成し、全店舗に配布している。

### 3. I-merge online International（マニラと浅草橋が拠点のIT企業）

**概要：** IT技術を生かした社会貢献として協働でビジネスモデルを構築中。会社が手がけるオンライン英会話学校のシステムをそのまま活用し、タガログ語オンラインレッスンを開校予定（2008年1月）  
<http://www.actionman.jp/tagalog.html> 利益配分は会社と当会で50%づつ。

### 4・ZERO-COOL（カリスマ美容師・元MACやWELLA等の有名ブランド広告を手がける）

**概要：** カリスマ美容師AKIRA氏が運営する美容院。元MACやクリスチャンディオールなどの広告を手がける他、佐藤藍子、椎名林檎、ミムラ等ヘアメイクを担当。現在マニラ在住のため月に1度当会と協働で駐在員奥様向けにチャリティヘアサロンを開催。一日20名の予約が入る大盛況。カット料

金は全額当会に寄付される。年明けにはフィリピンの高級ショッピングエリアにヘアサロン「ANGELISTA」をオープン。売上げの10%程度が当会へ寄付される。また美容師を対象としたスタディツアー「ストリートチルドレン100人の髪を切ろう！」を協働で計画中。

#### 5. ZAIN・静岡県茶業組合（静岡県浜松市内で喫茶店やお茶関係の事業を展開）

**概要：**世界的にお茶の需要が高まっている中、日本国内ではお茶栽培の後継者不足に悩まされており、これまで培った日本の茶の技術を伝えて少しでも人の役に立ちたいという茶業組合と協力。フィリピン先住民族アエタ族の居住地域がお茶栽培に適していることから、ピナトゥボ火山の噴火で山と生業を失ったアエタ族の新たな産業としてお茶栽培を目指す。現在、モデルファームで試験的にお茶を栽培中。

#### 6. 三菱東京UFJ銀行 本社 インストラクターファイナンス部

**概要：**本社より銀行ならではの貢献をしたいというお申し出があり、当会で白いワイシャツの提供を提案。フィリピンの男子高校生の制服は黒ズボンに白ワイシャツが定番。しかし、家庭の事業からシャツが買えずに学校に行きたがらない生徒も多い。このことから本年7月に行内で白ワイシャツを呼び掛

けたところ300枚が提供された。今後も継続していく。

#### 7. 大和ハウス工業

**概要：**社員の継続的募金活動の寄付先として当会をして頂いた。またCSR担当者が当会事務局を訪れ、今後の協働した活動について協議。社内で代表の講演会や電気代が日本とほぼ同じというフィリピンにおいて、電気料金が孤児院や様々な施設の運営負担となっている事から、ソーラーパネルの設置等のアイデアが出ている。

その他、日本→フィリピンへのお土産としては日清カップヌードルのシーフード味が一番人気なことから、フィリピンでストリートチルドレン出身者が学費を捻出するための場としてシーフード味に絞ったラーメン屋をオープンする企画を作成しています。これに関しては当会の事務所がある武蔵野市内においてパートナーとなってくれるラーメン屋さんを探している所です。

上記が現段階の主な取り組みです。当会としましては出来るだけ企業にあったCSRを提案もしくは協働で実施したいと考えています。またCSRに使う資金を生み出すビジネスモデルや寄付の仕組みを常に念頭に入れながら、双方にとって負担が少なく継続していける取り組みを目指しております。